

## 第14回京都文化芸術都市創生審議会 摘録（速報版）

日時：平成27年7月31日（金） 午後1時30分～3時30分

場所：京都ロイヤルホテル&スパ 2階 翠峰の間

出席委員（敬称略）：

池坊由紀会長，潮江宏三副会長，猪木武徳委員，河瀬直美委員，栗山圭子委員，  
佐野真由子委員，鈴木晶子委員，畑正高委員，早川一子委員，真下仁志委員，  
山本淳子委員，鷺田清一委員，藤田裕之委員

事務局：

平竹耕三 文化芸術政策監，北村信幸 文化芸術都市推進室長，木咲圭二 文化事業推進部長，  
土橋聡憲 文化財担当部長，山本ひとみ 担当部長ほか

- 1 開会
- 2 平成26年度の「京都文化芸術都市創生計画」及び「京都文化芸術プログラム2020」の取組状況
- 3 平成27年度の主な取組について  
別紙のとおり意見交換
- 4 閉会

## (別紙) 意見交換摘録

### 「1 東京オリンピック、パラリンピック等に向けた京都の文化芸術の発信」について

#### <会長>

本日は事務局から説明があった論点の部分を中心に意見交換を進めていきたい。まず始めに「1 東京オリンピック、パラリンピック等に向けた京都の文化芸術の発信」について御意見をいただきたい。

#### <委員>

今回、送付してもらった資料を見て初めてこのような様々な取組を知った。まわりの市民に聞いてみても皆自分と同様に知らなかった。市民にうまく周知ができなければ、行政や関係者だけがやっている事業と受け止められ、市民からの賛同を得られないのではと懸念している。

先日愛知で THE ICE というショーを見に行く機会があった。本物のパフォーマンスを見せようとしており、また観客も一緒に参加できるようインターネット等で事前に内容の情報提供がされており、大変盛り上がった。見に来る人、参加する人のモチベーションが高まるための一工夫が必要ではないか。

#### <委員>

広報はどこが担当しているのか。

#### <事務局>

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムは来年の10月に向けてこれから機運を盛り上げていこうという段階の中で国の方でも予算の概算要求の準備を進めており、京都文化フェアも先日中間案がまとめられたところである。広報については、今後実施主体が決まっていく中で、具体的に進めていくところであり、現在は来年に向けて動き出そうという準備段階にあるということを御理解いただければと思う。

#### <委員>

広報はやっている側が一生懸命にやっているからこそ手薄になってしまうことがある。これらの取組は世界に開かれていかなければならないということを考えると、日本の中だけで盛り上がるのは良くない。

東アジア文化都市は、来年は奈良市で行われるが、まだ色々なことが決まっていないという状況にある。もしかすると再来年に京都市で行われる時も同様に、決まっていない状況がずるずると続いてしまうことを心配している。

そういうことを考えると、「どのような人が誰に届けるのか」ということは実は一番最初に考えないといけない。今後、来日する外国人の方もどんどん増えてくるので、英語力がためされる。インターナショナルな広報の方達にも入ってもらった方がよいのではないか。

#### <委員>

京都文化フェアでは、まちじゅう博覧会、まちじゅうを舞台にという内容があるが、実施する際には是非、生徒や学生を参画させてほしい。文部科学省がいま、「スーパー・グローバル・ハイスクール」という取組を進めており、地域の課題に対して高校生自身が施策のようなものを考え、最終的にはその手作りの案を世界に発信しようとしている。京都でも堀川高校がその指定校となっており、高校生にとっても考えるいい機会になるだろう。

<委員>

最近ではアジアから来日する外国人の方々が多いと思うが、ヨーロッパ、アメリカ、中東の方々など世界中から日本に来てもらうための取組が必要だ。京都が日本を代表する都市として、市民・府民全体がおもてなしの心を考えなければいけない。単にお祭り騒ぎで終わるのではなく、継続性のあるものにする必要がある。また、文化芸術の分野でもコスト意識を持つことが大切。補助金ばかりに頼らず、どのように予算を捻出してフェスティバルを継続していくのか、長期的な視点で50年後を目途に、しっかり予算のことを考えて事業に対応していくことが大切だ。

<委員>

いかに京都「の」文化芸術を発信するか、という発想は正しくないように思う。いかに京都「から」文化芸術を発信するか、と書かなければニュアンスが違ってしまわないか。

日本文化が京都をプラットフォームにして1,000年間以上熟成したという事実があるのだから、それをしっかりと踏まえて京都から出発しようという取組にして、京都から世界に向けて文化芸術を発信するという迫力をまず確認しないとイケない。

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムが行われる際には、四条通を2日間通行止めにして、歩行者天国にしてほしい。20年程前に全国の祇園祭が京都で行われた際には、全国の祇園祭が京都から発信された。そういうイメージではないだろうか。

<委員>

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムは1日だけの事業であり実質があるものではないと思う。むしろ大事なのは京都文化フェアの方で、これをどのような方針で進めていくかということにある。この時考え方が2つあって、

①スポーツ部門は東京で、文化部門は京都が引き受けるという考え方

②オリンピックは単に機会として利用するだけであって、京都はオリンピック後に続く仕組み作りを進めるという考え方

これらを比較した時に私は、②の仕組みづくりの方が大切だと考えている。世界の人々に京都の総合的な文化力を提示するというのは、単に京都を宣伝するだけでとてもローカルで小さな目的に過ぎない。それよりは、京都が国家の中核でなくなってからも、水力発電を作ったり、市電を作ったり、疏水を作ったり、学校を作ったり、自治体と民衆が協力して賑わいの火を消すことなく今まで続いてきたまちとして、人類社会に向かってこれからの文明のあり方、世界市民の在り方や人類社会に通用する一つの生き方（ライフスタイル）の提案があった方がよいだろう。

<委員>

日本に良い所はたくさんあり、特に京都には文化芸術をはじめ良い所がたくさんある。日本の文化にもっと自信を持って、オリンピックで世界の人々にそれを示す機会とすべきだ。

<委員>

オリンピックは日本にとって大切な契機ではあるが、それに付いていかななくてはというのは違和感がある。普段何もない地域ではそれも大切かもしれないが、京都は違う。敢えて京都をローカルな位置付けにする必要はない。

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムについては、明らかに東京中心の催しであり、わざわざその小さな一部を京都で開催しなくても良かったとは思いますが、以降4年間の京都文化フェアのキックオフと意識してその面を大切にすればよいのではないか。

まちじゅうを盛り上げるという考え方は素晴らしい。京都は居ながらにして美術館・博物館であり、ある知人は祇園祭が無料で見られるだけで凄いことだと話していた。多くのイベントを新しく実施することに夢中になる必要はなく、京都には高名な方から若手までがたずさわる既存の

素晴らしい取組がたくさんある。ART GRID KYOTO のプロジェクトを通じて、そのことを改めて実感することができた。既存の取組を発掘し直し、それらを目に見えるようにしていけば良いと思う。

ところで、今年の祇園祭の際には警官の方の対応に乱暴さが目立ったのが残念だった。こういう所まで気を付けなければ真のおもてなしには足りないのではないか。表面の綺麗な所だけでなく、皆でおもてなしを良くしようという姿勢が大切だ。

#### <事務局>

ここまで委員の皆様から御指摘を頂いたので、事務局から発言をさせてもらいたい。京都ローカルな発想となっている点は御指摘のとおりであり、京都が日本の文化芸術だという自負を持って「京都から文化芸術を発信」していきたい。また、スポーツ・文化・ワールド・フォーラムについては1日だけのイベントとなるが、その後に4年間続く京都文化フェアを通じて、京都から文化芸術を発信する息の長い仕組み作りをすることが重要だと考えている。

#### <事務局>

事業の展開に関して補足させていただきたい。過去について言えば、源氏物語千年紀が古典の日の制定に繋がったように、京都はこれまで展開を拡大してきたところがある。京都文化フェアについても取って付けたものではなく、既存の取組を大事にしながら、新しい取組を添えるものだと考えている。

また、広報関係についての御指摘があったが、東アジア文化都市についてはパートナーとなる中国、韓国の開催都市が直前まで決まらないという事情と、オリンピックの文化プログラムについては来年のリオ大会後でないとスタートできないという事情がある。動くのが遅いように見えるかもしれないが、頑張って進めていきたいと考えているので御理解いただければ幸いである。

#### <委員>

具体的な提案はないが、印象として内容がインパクト重視に偏っているのではないかと危惧している。いま国立競技場の建設費の問題が大きく取り上げられているが、単に建物を作ったというだけではいけないし、イベントを実施しただけで終わってもいけない。今後進めていく際には、コスト意識を忘れず、インパクト重視にならないよう十分気を付けなければならないだろう。

あとはこれまでの説明を聞いて気になった点だが、ART GRID KYOTO, PARASOPHIA, キックオフ、ムーブメントなど片仮名や横文字が多いのが気になった。参加意識をさまたげることもなる。探せば魅力的な日常の言葉もあると思う。

また、琳派 400 年記念事業については今回事務局の話を聞くまでは京都府の事業であると理解していた。

#### <委員>

オリンピックを契機に未来都市のかたちを見せていくということを念頭に置いて開催する国は多いと思う。そういう意味では、日本の未来形を京都から発信していくというのが今回の一番大きな目標になっていくだろう。

そのためには、美をきっかけに ICT（情報・通信に関する技術の総称）をうまく活用して、京都が日本の未来像をつくり、美を感じる心から「こころの創生」へと繋いでいけるのではないだろうか。ICT を活用することでコスト削減もできるのではないか。

情報と美の関係についても、いま科学技術基本計画において情報というキーワードが浮上ってきているが、これからの5年間でこの分野と連動していくことで京都が日本の未来像を作り、そこに日本の知恵が入っていくということがあり得るだろう。

また、教育委員として参加している会議で、子どもやその親がどうしたら美術館に行くのかと

考えたときに次のような取組が必要だという話があった。

- ・ 子どもが騒いでも行けるような環境
- ・ 校区外に揃って生徒が出かけられる仕組み
- ・ 子ども文化パスポートのような特別割引制度

このような取組も今後進めていく大きなプロジェクトに向けて御配慮いただきたい。

#### <委員>

「京都以外の方が京都に求めている文化」と「京都の人が感じている文化」は若干違うと常日頃思っていた。文化は生活の中に根付いてこそ文化だ。私たちの暮らしを次の世代につなげていくきっかけとして、このフォーラムであつたり、京都文化フェアの4年間の取組があればいい。日本の未来を考えた時、自分たちの暮らしの文化が立ち止ったものではなく、これから先も続いていくものとして次の世代に伝えていけるように発信していければいいと思う。

#### <会長>

京都文化フェアは、市民一人一人が発信者となる未来への提言だと思っている。

特に若い世代では自分に関係がないと思ってしまうと、受け入れられないということもあるので、この文化フェアにどういう意味があるのか、老若男女それぞれではあるが、特に若い世代には、傍観者としてではなく、一人一人が実践者、発信者として関わってもらえるような促しができればいいのではないかと。

#### <副会長>

ロンドンオリンピックの文化担当者に「京都文化芸術プログラム2020」を説明する機会があつたが、2020年以後のことを見据えたこのプログラムは非常に高く評価されていた。このプログラムは一過性のものでなく、七つの視点のコンセプトは非常に大事なことであり、これらの土台のうえにイベントを積んでいけば良い。

ガイドラインとなるようなコンセプトを体系付けて整理し、美術館等の宝物を展示する等、各自のイベントを再評価して進められれば、2020年の京都文化フェアも新しい展開ができるのではないかと。

また、スポーツ・文化・ワールド・フォーラムは、非常に時間的にも短いものであるが、京都市美術館でも伊藤若冲展と工芸展を開催し、京都の文化芸術に触れてもらえるしつらえをする予定である。ロームシアター京都についても、ロビーを作品展示の場所に利用できるのではないだろうか。芸大の学生の作品展示や友禅の壁紙をしつらえておもてなしをするなど短期間でも京都の感性に触れてもらえるさまざまなアイデアが考えられる。文化プログラムと有機的に関連付けができればよいものができる。

ところで、先ほど委員から御質問があつた琳派400年記念事業、PARASOPHIAについてだが、全体の仕事量のバランスを考えて、京都市と京都府がそれぞれ得意な部分でイベントを進めていったのではないかと。

#### <委員>

今後、文化芸術の担い手、支え手や鑑賞者が激減する人口減少社会にどのように対応するかが大きな課題となっており、京都文化芸術プログラムの視点の一つに「育てる」ということを掲げて進めているわけではあるが、生活の中で身近に文化が息付く風土、ライフスタイルを京都から作っていくことが求められるのではないかと。

また、情報発信をどこに向けてやるのかを考えたときに、忘れてはいけないのは世界だけではなく担い手となる市民や子ども達に向けて発信するという視点だ。

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムについては、ICOMと比べて積極的に京都から開催に向

けて動いていたわけではなく、文化芸術を世界に発信しようということで、京都が開催地として受けさせていただいた。文化フェアの中で位置付けを考えながら、2020年に向けての良い機会に変えていければと思う。

## 2 「京都遺産制度（仮称）」について

<会長>

次の議題「京都遺産制度（仮称）」に移りたい。

<委員>

京都遺産制度でストーリー性とはどのようなことなのか説明をお願いしたい。

<事務局>

現在、制度の内容が固まってはいるが、例えば、琵琶湖疏水から庭園文化が生まれたというテーマを基にしたストーリーであったり、一つの時代、戦国時代の武将（豊臣秀吉など）の関わったお寺やスポットなどを文化財群にまとめるということができないかと考えている。そのようなストーリー性があるものだけにするかどうかということを含めて事務局としても検討をしているところである。

<委員>

以前配布された「京の食文化」や今回の「京の地蔵盆」を紹介する冊子は、とてもよい取組だと思った（これらの冊子は審議会の場ではもらえるが自宅のポストには入っていないので、どうやって広く共有するかという課題はあるが）。これだけでも十分くらいだが、京都遺産制度を制度化する時には、これは「京都遺産」でこれは違うといった選定を行う方向にいかないでいただきたいが、史実が間違っていない限り、色々な人達の多様な提案を受け入れていってはどうだろうか。ベスト・プラクティスという言葉があるが、良い活動例を顕彰する形なら選定するということがあってもいいと思う。

<委員>

京都遺産制度の名称は仮称ということであるが、遺産という言葉が気になった。遺産には、ガラスケースに入れて閉まっておくようなイメージがある。世界遺産があって、日本遺産があって、京都遺産があって…という流れは制度にランク付けをしているようにも見えてしまう。

それよりも新たな名称として、例えば「京都物語制度」はどうだろうか。いま物語を生きている人間であるという言葉に改め、楽しさ、次の世代に語っていききたいというものに変えることができればいいと思う。

<委員>

祇園祭の山鉾巡りをした時の経験はすごく楽しかった。また、レストランにリノベーションをした町家など京都にはお寺以外にもいい建物がたくさんあるので、そのようないいものが残ってほしい。

<事務局>

京都遺産を世界遺産、日本遺産にランク付けしている意図は全くないが名称はもう少し考えた方がよいかと思う。京都遺産制度は、市民の方が誇りに思え維持・継承につながる、また観光客の方々に魅力を伝えられるような制度にしていきたい。市民の方からの応募や町家のレストランがあってもいいかもしれない。

<委員>

文化遺産は「文化資産」である。その時代その時代に資産として活かされ、今も役に立っていて、これから先も続いていくというニュアンスを込めてもらいたい。遺産という言葉に固めてほしくない。

### 3 その他

<会長>

最後に「その他」の御意見はあるか。

<委員>

最近、中国をはじめとしたアジアの方々がたくさん来日している状況にある。まさに浴衣を身に付けながら股を広げている人がいて何か言おうかと迷っていると、彼等の話している言葉が日本語ではなかったりするという場面を見る。外国の方に日本のしつらえを伝えようとしても、術がない。

銭湯や温泉にはタオルを湯船に入れてはいけないということが図にして描かれていたりするが、本質の部分は伝わってはいない。湯船は皆で使うものだからきれいにしなければならないということもあるが、モノには心があり、使ったものはきちんと元通りにしておくということを私達は小さい頃から教えられているが、そのような目に見えない所に日本の文化の中心がある気がする。

そのことを伝える場として、京都はあると思うし、そのようなしつらえをしていて、発信しようとしているが、それが分からない人達によって台無しにされてしまうことがある。

静かにすることを良しとする日本人はマナーを守らない人達を目の当たりにして何も言えなくなってしまっているという現実があちこちで起きている。こういう時、日本人である私達は何を言えるのだろうか。皆さんにも聞いてみたい。日本文化のマナーを理解した人が生活する京都こそ、世界に誇れる京都になるのではないか。根本的に日本文化のマナーを教える制度をつくれたらよい。

<委員>

同感である。どんどん人が京都に来てくれるのはありがたいことではあるが、マナーを発信する術がなければこういう困った状況が起きてしまう。後から物言いをするのではなく、前もって日本人のマナー、文化を発信できればいいと私も周囲の人と話していた。

<事務局>

観光客のマナーの問題については、市としても大きな悩みとなっているところである。これは文化芸術の部門だけではなく、観光の部門でも同様である。本日は意見交換する時間が無くなってしまったが、また委員の皆さまから知見を聞かせてもらえればと思う。

<委員>

京都ブランドの価値が下がってしまうことを心配している。

<委員>

まちなかでタバコのポイ捨てをする違反者は海外の観光客が多い。そういった部分でも、日本のマナーを伝える情報発信をしっかりやっていきたいと考えている。

<会長>

本日は様々な御意見をいただいた。閉会時間となったので、これで議事を終了する。委員の皆様には、進行に御協力いただきありがとうございました。